



## 半世紀ぶりの再会

### 四学年合同同期会報告

BN  
727 藤本 俊明

昭和四十四年度卒（1969）から四十七年度卒（1972）の4学年のOB・OGのメンバー二十六名が東京駅のとある場所で、約半世紀ぶりに再会しました。

この集まりは、昭和四十四年度卒の西島主将、野島主務の掛け声で開催されました。遠くは、岡山、香川、秋田、岩手、新潟県から馳せ参じ、年に似合わず飲み放題に制限時間なしの会場に臨みました。四十九年度卒の諏訪本監督さんも特別参加いただきました。

これまでの同期会と言えば、当然同じ卒業年度の集まりで、年度を超えた会はなかったと聞いています。この年代の学生時代は、高度経成長期であったものの、大学の紛争が盛んな時で、学内は立て看板やヘルメット学生や鬪争旗で騒然とした時代でした。

四十七年度卒の六名から今回の懇親会の感想を聞きました。

- 「一気に現役当時の年に戻ったようでした。名テーブルで話題が尽きませんでした。それでも四十数年が経った今でも先輩は先輩、風格を改めて感じました。」
- 「四十年代は仕事や家庭のことについてぱい。仕事からリタイアし六十代を過ぎた今がしがらみもわだかまりもなく集まれたと思います。午後一時から六時ごろまでよく飽きずに話せたと我ながら感心しています。付き合ってくれた先輩に感謝です。」
- 「一年部員にとって四年生は雲の上の人、夏合宿までの短い期間なのでキャラブテンの西島さんは現役時は話したことがありませぬ。親しくお話しできるとは…先輩のほうがむしろ懐かしく感じていたようでした。」
- 「懇親会場に入つて、すぐに現役時代の顔と名前が一致できた方、あれ、誰だっけ?名前が出てこない先輩も何人か。そのうち〇〇さん、△△さんと判明。下級生から

**第56号**  
明治大学体育会  
ワンダーフォーゲル部  
なため会会報

参考までにこの年代の夏合宿を紹介しますと、昭和四十四年は四国（BCは高知興津海岸）、四十五年は南東北（同山形県朝日岳山麓）四十六年は北陸地方（同岐阜県御母衣ダム）昭和四十七年は北東北（同青森県八甲田山麓）でした。

見ると先輩は分かるのですが、逆に上級生から後輩を見てもどこの誰だか見当がつかないと思います。それでも同じ飯盒の飯を共にした間柄です。半世紀のブランクは瞬時に埋まり、青春の山野に思い出が広がっていました。逢えて嬉しい限りでした。逢えて嬉しい限りでした。



た。

○「案内が来た時、このような集まりなんて、珍しいなと思いました。上級生にはもう会えないと思っていたから、遙えてよかつたで

す。この機会を逃しては悔いが残るぞと、万端を整えて参加しました。一年部員の夏合宿等で受けた不可解な「正座」の真意を糺そうと意気込んだものの、握手でゲームセット、恩讐は何処へやら。四年間ワンゲルを辞めずに頑張りぬき、今〇B回士としての縁を感じた懇親会でした。」

○「とにかく皆さん元気です。そうでない方

もおりましたけれど、元気をもらつたと思

います。私自身、何をしゃべったか五時間

が短く感じました。仕事や職場の話題は既に過去形のようです。現役の名養成Wや夏合宿、スキー合宿、草津小屋や手白沢小屋のこと、皇居周回のトレーニングなど、当然ワンゲルのことが現在進行形のように甦つてきました。この時間だけは四〇歳も若返りました。」

以上がそれぞれの感想でした。「先輩に会えない」と諦めていました。参加してよかつた。「東京オリンピックの年にも日本の健闘を祈つて集まろう」と勝手に後日提案しておりました。

共通していふことは、一気に若返つたように感じたこと。

互いに健康寿命を祈念し合つたこと。そして久しぶりの再会が、新しい出発点に立てたた

ような気がしました。お互にありがとうございました。

## 渡り鳥

昭和44年度入部 津国 次正

スポーツ部は中学生の頃に3年間テニス部、高校の時は何もせず無気力になつていた3年生の時にバレー部に誘われ1学期だけ在籍しました。大学に入り何らかの理由でワンダーフォーゲル部に入部しました。生田の売店前の広場に机と椅子を並べて勧誘していた時に安部秀樹さん(BN71)と顔が合い、その時の色白で少し憂鬱そうな姿を今も覚えています。

一年の時は山でよくバテてしましました。

山に行くのはバテに行くようなものでした。

体力と精神力の弱さからだといふい強くなろうと頑張りましたが、今になって考えればバスなどの乗り物酔いが原因だったのかもしません。バテて苦しい状態が続き動けなくなりましたが、意識ははつきりしてて数十分

の休憩で体力が回復して前進できました。乗物酔いは今もバスやタクシーで経験しています。それでも丹沢の表尾根を日帰りで全

たのが緑の木々に覆われていました。昔たびたび登った山に再び行きたいとの思いがかなえられました。

一年の時にスキー合宿で足を痛めました

が、若氣の至りで病院に行かなかつたことが

原因で右足首の筋を痛めてしまい、重い荷物

が担げなくなつたので退部してしまいました。今も少し痛みますが、足から腰に来たのか、2年前と今年の2回、腰の圧迫骨折をきたし、それぞれ6か月と2か月の安静療養を経験しました。夏は毎日泳いでいましたが、療養後に足の届く砂浜でクロールの練習をして、うまく泳ぐにはいかに力を加えないでダラーとした状態になるかではないかと気づきましたが、腰を痛めたので今もうまく泳げません。

現在は農業でミカンを栽培しています。先

日のワンゲルの集まりにもレモンを送りました。今は20本程ですが、来年は町の補助金で苗木を35本買い増します。自然の力にはかなわず雑草や害虫に負けています。農業の盛ん

な地域ではないので、良い環境での農業生産ではありません。近年はワンゲルの先輩だった相沢篤さんの影響から、鳥や草花に興味がいくようになります。白い翼のカラスを見たり、11月頃まで鳴くウグイスも見たりしました。昨日は冬鳥のジョウビタキを見ました

が、想像していた昔の面影はなく、ハゲ山だつ

25年の時に同じ班だった福本利直さん(BN725)の車でヤビツ峠に45年振りに行きました

が、想像していた昔の面影はなく、ハゲ山だつ

が、今日はミカン畑を素早く飛んでいました。

平成26年の9月に生田で同じ学年だった山崎正信さん(BN73)から40数年振り手紙を

いただき、その後は毎朝メールを交換しています。山崎さんと福本さんが3年前に生名島を訪ねてくれ、一緒に付近の島々の山を登りました。昨年は佐藤隆夫さん（BN722）と福本さんと一緒に山崎さんの住んでいる静岡へ観光に行きました。今年は山崎さんと福本さんの自宅に泊めていただき、名所旧蹟を見学しました。

因ふ上私6メールアエコスせ tugmasa-i  
@camel.pala.or.jp じゅ。ケルーハウ「マニ  
>」ドメールを発信つておま。

企画振興部「丹沢湖畔フアミリー」

企画振興部 BN 871 平田 正博

10月28日(土)から29日(日)で世附川口ツジにて「丹沢湖畔フアリコーキャンプ」を開催しました。

普段であればなため会Wは企画振興部でお世話させていただくのですが、今回は企画振興部以外の若手（と言つても40代以上）のOBや現役2名の応援をいただき、下準備から食事会の盛り上げ役までのほとんどを担つていただき大変に助かつた次第です。この場をお借りしまして改めて御礼申し上げます。この企画の中で特に古参OBといたしましては若手OBや現役との交流が何より新鮮で楽しいものである事を実感いたしました。



左から2人目がこのロッジオーナーの前田〇B

中でも秋元OB(59)は奥様同伴、鈴木(幸代)OG(71)は9歳のお孫さん同伴でご参  
加いただき、今回のWに花を添えていただいたのと同時に参加者の皆様に対しても楽しい  
時間をご提供いただきました。また、荻原OB(11)の山での活躍も山好きOBの代表と  
して面目躍如と言つたところでありました。

また、普段なかなか参加できないOBも同期で夜通し語り合おうという事で遠くは四国からの参加もありまして、今後のなため会Wの一つの方向性として一泊のバーベキュー・キャンプ形式もありかなという感触も得ました。今回ベースとなりました世附川ロッジが前田OB（1106）の経験という事もあり、様々便宜を計つて戴いたことも安全に安価に快適に過ごせた大きな要因の一つと思つております。OBの方々には山から遠ざかって山（山嫌い？）という人も多い中で、普段着やサンダル履きで簡単に自然と触れ合う場を提供できる可能性をもつと追求していくという気になつております。あとは若手のOBの方々にも気兼ねなく参加していただける企画をひねり出さねばならないと思つておるのでが、なかなか良いアイデアが湧かないものですから、どんなご意見でも結構ですのでお聞かせいただければ大変に有り難く存じます。

最後になりますがご参加の皆様と関係者の皆様、ご協力ありがとうございました。

きる可能性をもつと追求していく、という気になつております。あとは若手のOBの方々にも気兼ねなく参加していただける企画をひねり出さねばならないと思っておるのでが、なかなか良いアイデアが湧かないものですから、どんなご意見でも結構ですのでお聞かせいただければ大変に有り難く存じます。

最後になりますがご参加の皆様と関係者の皆様、ご協力ありがとうございました。

卷之三

現役	BN 1115	BN 上原	BN 誠	元典	現役	光浩
伊藤				鈴木	福澤	
悠人	BN 2120					

## ロッジの思い出

BN  
1106  
前田  
裕司

卒業後一度もなため会の活動に参加していなかつた自分が3年前の総会からお邪魔するようになりましたのは自分が経営するロッジを皆さんに使っていただきたいと思ったからです。今回はこのような私利私欲を叶えてください、諸先輩方には感謝申し上げる次第です。

にどのような不純な動機にお仕置きをするかのように、当曰は雨のスタートとなりました。前泊された平田先輩と朝9時頃、JR谷峨駅にお迎えに行く時は小雨がパラついておりましたが、勇敢な先輩方は大野山を目指して出発されました。小学3年生のお孫さんを連れた鈴木先輩は登山を諦め、ロッジに直行することになりました。

ていくという動作を繰り返します。しかし、生地はドロドロですので塗った側からタフタフと垂れてしまいます。炭火の上で垂れないように竹の両端を一人で持つて回転させます。最初は早く回さなければなりませんが、生地が乾いてくるとゆっくり回して大丈夫です。一回塗つたといいで生地がなくなりましたが、先輩と御孫さんは手や腕がかなり疲れましたよ。



バウムクーヘンも美味しく焼きあがりました

外します。上手く外れ、切つてみると見事な年輪模様が現れました。「ワアー！」と歓声が上がり、お孫さんも満足そうでした。当ロッジはBBQをするだけではなく普段はできない石窯料理（パン、ピザなど）や流しそうめん、鱈のつかみ取り、木工体験など多彩なプログラムをご用意して皆様のお越しをお待ちしております。「世附川ロッジ fc 2」で検索してみてください。



## 丹沢湖畔ファミリー

### ワンデルングに参加して

BN 1113 荻原 健一

実施日：2017年10月28日～29日

BN 1113（平成4年度卒）の荻原です。早い

もので卒業以来25年の月日が経つてしまいま  
したが、なため会主催のワンデルングに初め  
て参加させて頂きました。なため会のMに登  
録していることから定期的にWを実施して  
いることは認識していましたが、他の多くの  
OB同様になかなか参加のきっかけがない  
中、今回は同期の前田OBが経営する丹沢の  
世附川ロッジを利用することで思わず手  
を挙げてしまいました。

今回はBN 871の平田OBの企画でA、B、  
Cコースが用意されていましたが、一番ビー  
ルが美味しく飲めそうなAコース（ワンデル  
ング付き）にエントリーさせて頂きました。  
私自身は今も社会人山岳会に現役で所属して  
おり、丹沢の裏山を数時間散歩するくらいの  
軽い気持ちでルートもろくに調べずに参加し  
たのですが、なかなかエキサイティングなワ  
ンデルングと相なりました。

JRの谷峨駅に9時頃に集合していく出発  
です。メンバーは最長老のS38年度卒BN 505  
の椎橋OBを筆頭にBN 600番台から800番台ま  
での大先輩方6名と鈴木善次郎前監督の御子  
息と私を加えた総勢8名です。大野山の山頂



まではコースタイム通り1時間30分程度で到着。山頂でコーヒータイムとなり和やかな時間をお過ごしました。そこから本日のお宿となる丹沢湖を目指して下って行くのですが、林道から登山道に入る入口を見つけられず、そのまま地図上にない林道を延々と進んでしまいました。随分と行つたところでさすがにおまけで楽しい山行になつて来ました。しかし、ながら残念なことに?私が先行して様子を見に行つた踏み跡かどうかやら登山道に合流することが分かり、台風ビバークの日詠みは露と消えてしましました。登山道に戻つてからは順調で丹沢湖に無事降りて最後は記念館から車でロッジまで送つて貰いました。

ロッジに入ると早めに入つて準備頂いていたOB諸氏や現役2名、Bコースの面々などに温かく迎えて頂き総勢24名でのバーベキュー大会となりました。散々飲んで、散々食べて、散々昔の歌を歌つて、みなさん最後は怪獣になつてしましました。

翌日台風による大雨の中での解散となりましたが、前田OBの素敵なおかげで快適でした。

なため会と会を支え続ける大先輩方のおかげで、大変楽しくそして懐かしい匂いと青春時代のちょっと苦い感じを思い出せた週末のひと時でした。

■2018年度なため会ワントレンジのお知らせ  
2018年度は、多くの老若男女、地方の会員の参加ができるワントレンジを企画します。手軽に歩けたり、美味しい食べ物を食べたりと、健康づくり、会員同士の親睦に、皆様の参加をお待ちしております。

日 程	場 所
5月18日(土)	湘南W
7月28日(土)～29日(日)	秋田W
10月20日(土)	鎌倉W
2019年1月20日(土)	富士山周辺

## 番外編

○秋の東京六大学野球観戦(9～10月)  
○ラグビー明早戦観戦(12月)

\*企画振興部への連絡は左記のアドレスへお願  
いします(企画委員全員へ転送されます)。  
kikaku@natamekai.org

## 「神奈川県の山」を登つて

BN 888 関口 健一

「山」は溪谷社『神奈川県の山』掲載全座完登をSNSにUPしたら編集長から「薰風に」と依頼あり。日本百名山を制覇されたOBもいらっしゃる中おこがましい限りだが、赴任メモリアルとして載せて頂く事に。  
鎌岳から見る日本晴れの大空が如く、広い心でお許し頂きますようお願い申し上げます。

「来月から藤沢で勤務して下さる」と言わ

れて皆さんは何から準備します?まさかのサーフボード?私は「神奈川県の山(山渓)」を一番に用意し、布団の中でページを捲りながら「丹沢山から眺める富士山」を妄想し、マニアする出発までの日々でした。(笑)。

鎌倉源氏山から西丹沢三国山まで三年半。

「神奈川の山を全部登ひたい」なんて気はサラサラ無かつたんですよ。長い赴任(まだ継続中)になるなんて思っていなかつたし。でも半分登つたら「折角だしなあ」三分の一登つて來たら「やるしかないよね」て感じ。年頭に「秋頃にはそろそろ移動かな?」と仕事スケジュール、日照時間を考慮し、三月…一本、四月…2本、五月…一本、六月…2本、七月…一本、八月…一本、九月…一本、十月…2本。

残りの山をピツチリ組んで登つた(仕事もこれくらい忠実なり今頃は...)。憧れの蛭ヶ岳は「雨」とわかつていても休みシフト上無理矢理。「ヤマビル」に絡まれながら...。原則「平日休み」なので「単独行」。それ故に気分が乗らなければ止めて一度寝。嫌々登つても事故の元ですからね。バス停から山中、バス停まで。誰とも会わないのが常。当然山小屋泊まりもガラガラで尊仏山荘では他人3人、蛭ヶ岳山荘では他一人、畦ヶ丸避難小屋は独りぼっち泊(あつそうそう、富士山宝永山荘に泊まった時も48個枕が有る部屋に一人でした)。山小屋で「気遣い不要」は肉体的にも楽なので「山は平日」限る)。

一応家族にはネット「登山のコンパス」でコースと下山は報告していますが事故ればそれまでなのが「単独行」。理由はいろいろですが、「技術と体力」に自信が無いので同行者に何か起きても助けられない。それ故の「単独行」なのです(山岳救助保険には加入)。「単独行」で気儘だったから登れたのだと思います(山行ってない休日は夕方四時から家飲みしているし、やっぱり山行った方が「健康&健全な休日」だな。下山後は駅ホームで人目にせず腹一杯飲んでますが笑)。



コースは掲載されている半日コースを「一つ繋いで日帰りで登るのが通常プラン。最後は「一泊」コース」ばかり残り、尊仏山荘と蛭ヶ田山荘と畦ヶ丸避難小屋宿泊。

以前から下りが弱点で、午後一時から必ず膝周辺と太股裏が悲鳴を上げていた。「膝が悪く」「膝に負担を掛けないよ！」とおっしゃるが、「膝に負担を掛けないよ！」と膝を伸ばさず登つていただが雑誌「山と溪谷」に『膝を延ばして骨を使って登のなこと（重心移動しなこと）膝周辺筋肉に疲労が溜まる』とあり、田から鱗。意識し、それから登の方を変えたり効果観面。田没までしつかり歩け、3回ぐらい残つていた筋肉痛も皆無（あくまでも「個人の感想」です）。

日々粗食自炊生活で体重が6キロほど落ちた半面、(遊ぶための) ハットワークが軽くなつたのも大きい。以前は一本田レストまでに『身体中の悪い物質が汗と一緒に流れ出でいる』感じで最初からバテバテでしたが今はそれも無し。夏に帰つた時、学生時代に買った紫紺横縞ラグビージャージに袖を通したりナント着れたではないですか。先日の明早戦は着用応援した甲斐あって快勝、喜び一倍。卒部と同時に「三」を止め、50歳で諸先輩に誘われて「阿曾原温泉小屋 水平歩道」から再開。学生時代は登る山の歴史や民俗に全く興味は無かつたですが、歳を重ねてからの「三」は不思議ながらも樂しい。特に神奈川県、いわくあつげな地名ばつかつむかづと歩けば頼朝や曾我兄弟、後北条氏、三浦一族、吾

妻鏡、旧街道、坂田金時など山の歴史と温泉がある。下りては図書館へ行き、気になつた事を調べ、それがまた次の山へと繋がり、「三」だつた山が次々とつなづいていく。

山を網羅して全くよい。山にかく圓山に『高やせかづが「三」でせなう』。圓山にかく圓山に『わの一度回じコース行せましょい』と誘の懐しみ方」が出来るのもワンドーフォール部に在籍した故だと想の昨今。

塔ノ岳に登れば丹沢山に行きたくなり、丹沢山に登れば蛭ヶ岳へ行きくなる。山が見えればその山が「次に登る山」。不思議なもので、行つたことが無い山々を下界から眺めると「ただ（名無し）の山」なのだが、一度登つて下界から見ると「あれが金時で、あれが明神。あれとあれが大山だ…」と以前がわかる。まるで「手を握つたおねえちゃんの名前はすぐ覚えられる」とこの「キャバクラの法則」と同じ（一応圓山もす）。鎌倉は四季折々訪ねておりますが、キャバクラに行つた事でやらません。神に、否、大仏に誓つて…。あくまでも聞いた話ぢやないわ。

さて、キツかったランキング（歩数は下宿からト宿まで）

① 2016年10月3日 (3時間39分)  
150.000歩  
寄<sup>タマジ</sup>～水ボックのオマケ～鍋割～塔ノ岳～ヤシハラ(冬場は夕方バス運休：泣)～裏毛

② 2016年10月7日 (3時間12分)

妻鏡、旧街道、坂田金時など山の歴史と温泉がある。下りては図書館へ行き、気になつた事を調べ、それがまた次の山へと繋がり、「三」だつた山が次々とつなづいていく。

山を網羅して全くよい。山にかく圓山に『高やせかづが「三」でせなう』。圓山にかく圓山に『わの一度回じコース行せましょい』と誘の懐しみ方」が出来るのもワンドーフォール部に在籍した故だと想の昨今。

塔ノ岳に登れば丹沢山に行きたくなり、丹沢山に登れば蛭ヶ岳へ行きくなる。山が見えればその山が「次に登る山」。不思議なもので、行つたことが無い山々を下界から眺めると「ただ（名無し）の山」なのだが、一度登つて下界から見ると「あれが金時で、あれが明神。あれとあれが大山だ…」と以前がわかる。まるで「手を握つたおねえちゃんの名前はすぐ覚えられる」とこの「キャバクラの法則」と同じ（一応圓山もす）。鎌倉は四季折々訪ねておりますが、キャバクラに行つた事でやらません。神に、否、大仏に誓つて…。あくまでも聞いた話ぢやないわ。

さて、キツかったランキング（歩数は下宿からト宿まで）

Each in its own way was...unforgettable  
It would be difficult to...  
Roman full Miura Peninsula.  
By all means,Roman full Miura Peninsula  
I will cherish my visit here  
in memory,as long as I live.  
「一輪腰の山」残つた山せゆうじんの山だか？」  
「ふわいの三やそれぞれに素晴のこく……」  
れは浪漫想れる三浦半島だわ。  
なんじこつても浪漫溢れる三浦半島だわ。  
私はいこつとも訪れた想い出を一生大切にかけたい

とでしょう。

丹沢の山々は言うに及びませんが、三浦半島の低山が実にイイのです。ゆっくり起きて、のんびり「山でも行くか」と10時に下宿を出ても一山登れる。二百メートル程しかありませんが、自然豊かで実に静かなのです。下りれば観光スポットも山盛り。是非!..

住まいしている石川や生まれた富山の「気になるあの場所、気になるその事」を元気なうかに「歩いてみたい、調べてみたい」と思つ今までこの頃(そろそろ帰りたい?笑)。

「早く次の目標見つけないと呆けるぞ」と心配する声も頂きました。ホントそんな感じ。感謝しかありません。これからもご指導ご鞭撻、ご愛読のほど、お願い申し上げます。

## 「五三会」のこと

BN 835 猪狩 稔

昭和50年4月入学、54年3月(53年度)卒業

業の私たちは同期会名を五三会(じつつあんかい)と名付けました。先輩に奢つていただき時の「じつつあんです」と「五三」の語呂合わせであります。昭和50年は「22歳の別れ」や「昭和枯れすすき」「港のヨーロッパマヨコスカ」などの曲がヒットし、夏には掛川のつま恋で吉田拓郎+かぐや姫の野外オールナイトコンサートが開催された年であります。行きたかったのですが、1年部員にそのような余裕は無く、涙を流しました。



## 四国お遍路について

BN 860 谷脇 嘉徳

ファッショングではトレンドコーネが流行り学生服の上に着用している姿を多く見かけることができました。

5月には田部井淳子さんが女性世界初のエレベスト登頂に成功されたと後から知りました。私は入部するまで一度も山に行つたことが無く、入れてくれる体育会の部が在あればどこでも良く、和泉のオリエンテーションで拳動不審者のように歩いていたところをスカラウトされ見事伝統あるワンダーフォーゲル部に入部する事になりました。

同期で80名以上入部し、夏合宿で半減、卒業時は21名(内女子5名)が無事バッケルを

いたくことができました。東京出身は私と他に2名のみで現在もほとんどが地方在住者となっています。全員が還暦を過ぎて同期会で集まればじ多分に漏れず持病の品評会のようになりますが、昨年は紅葉真っ盛りの「妙高高原」で休暇村妙高の支配人の田中君のお骨折りによって笹ヶ峰、いもり池などの散策でみなで絶景に触れる事ができました。われわれは4年間、合宿で一度も北海道に行くことが許されなかつた代であります。「一度いきたかったなあ」が本音ではあります、それもまた五三会らしいのかな?とも思つております。次回は秋田での開催を予定しております。村木、頼んだよ!..

私は子供の頃からお遍路を身近に見て育ちました。

ましたが、子供の頃の昭和40年前後の彼等に対する記憶は「貧困」ではなかつたかと思います。当時の彼等の姿で最も印象に残つているのは、軒先で念仏を唱えながら托鉢をする姿です。それは、その家の住人が喜捨を施すまで延々と続きます。私の家内は同郷で同級生ですが、農家の娘であつた彼女にも、子供の頃、祖母から言われ米を喜捨した記憶があります。当時、日本は高度経済成長真っ只中だったはずですが、その恩恵は十分に行き渡つていなかつたかもしません。そして、いつの頃からか托鉢をするお遍路の姿は消え、大型バスに乗つた観光遍路が大勢を占めるようになります。現在は、それが夫婦、友人などの少人数のグループや独り遍路に変わり、最近では外国人遍路の姿も目に付くようになりました。独り遍路の中には私と同年輩の男性が多いのですが、人生の過渡期である60歳代になり、来し方行く末に思いを巡らせているだろう彼等の姿に自分自身が重なつて見える気がしています。

それでは、四国遍路をご紹介します。今

香川県で生まれた弘法大師空海が1200年

を超える昔に修行したといわれる場所や、その足跡を巡礼することを四国遍路といいます。一番札所から88番札所まで約1,400キロ、全て歩けば健脚の方で45日、ゆっくり歩くと約2ヶ月かかるといわれています。ただし、車やバイク、自転車、レンタカー、公共交通機関など様々な交通手段を使ってお遍

路をすることも可とされ、1番札所から順番にお参りをしなければいけない決まりもないようです。とは言いつつも、なため会のメンバーには釈迦に説法ですが、流した汗の分だけ得られるものは大きいはず。ご自分の体力とじ相談ということになりますが、出来るだけ歩き遍路の比率を高めることが遍路旅の意義を高めることにつながるはずです。良くできたもので、1番札所靈山寺（徳島県）から6番札所安楽寺（徳島県）までのコースは、徳島空港からも近く、歩行時間5時間程度で足慣らしコースとされています。まずは、1番札所から参拝をすることをお勧めします。



徳島県の1番札所「靈山寺」から最も遠方（324km先）にある愛媛県愛南町の「観自在寺」

私のお勧めコースは、高知県東部、室戸市の最御崎寺を始めとする3寺。この地で空海は修行をしたといわれています。空海が寝起きして修行をした御厨人窟からの視界の先は空と海のみ。空海の名前の由来といわれています。太平洋の荒々しい波が打ちつける景色は雄大で、天気が良ければ高知、徳島までの海岸線を遠望することができます。ただし交通の便が悪い上、隣の札所までの距離が非常に長い。歩き遍路には相当の覚悟が必要です。次に藤井寺（徳島県）から焼山寺（徳島県）のコース。一転（ひねり）は山道ですが、「遍路ころがし」といわれ遍路が軽落するほど険しいコースとされています。というのは少し大きさです。なため会のメンバーであれば、恐るに足りない山道です。

四国遍路は装束にも寛容で、普段着でもOKです。しかし、白衣や菅笠を身に付け、金剛杖を持ってこそ周りからお遍路と見てもらえます。四国人の「お接待の心」はお遍路に對して特に強いと感じます。お遍路が何か困っているのを見かけば、大抵の人は声をかけてくれるでしょう。多分、また、遍路道の所々には遍路小屋や休憩所があります。例えばコンビニの軒先やハウス園芸農家の二階ハウスの一角がお遍路用の休憩所として提供されてたりします。残念ながら私はテレビで観ただけですが、接待所といって軽食やお茶、お菓子で接待をする有志の方もいらっしゃるそうです。四国人達は皆人情細

やかで優しい人ばかりなどとは毛頭思っていませんが、お遍路に対しては特別扱いのような気がしています。遍路旅での宿泊は、お寺が営む宿坊かお寺の近隣にある遍路宿に泊まるのが一般的だと思います。宿坊での食事は精進料理で、朝にはお勤めと法話があるようです。非日常を体験できるのも遍路旅の楽しみのひとつだと思います。

そして、八十八ヶ所を全てまわり終える。それを結願といいます。**同行一人**。遍路の旅には常に弘法大師空海が共にいてくれているという意味ですが、結願を迎えた時、弘法大師は遍路に何らかの教えを授けると私は思っています。これを読んで遍路の旅に出て結願を果たした方は、是非、薰風に投稿してください。待っています。

## ナマステ、印度共和国

BN  
746 松井 幸市

私は現在、インド初の高速鉄道で日本の新幹線方式が採用されたMAHESR(マンバイ・アーメダバード間高速鉄道路線)プロジェクトに海外での地下鉄工事の経験を生かして建設専門技術者として参加しており、200名近い多職種の専門技術者(日本人+米英人若手)とサポートしてくれるインド人スタッフの人達と共に業務を行っています。

←ここからはご存知、フーテンの寅さんの口上でお読みください。

金波、銀波の浪を超えて、台北・新加波・香港と、行方定めぬ殷旅暮らし。陽光煌めく比律賓で、ルソンの「ハリマオ」氣取つてみたが、時代錯誤と無視されて、もうつたバナナも喰い詰めて、流れ流れて10年目、こゝは亞細亞の西の果て。顔は元より色までも、染まってしまったこの頃は、「ムガール帝国印度の民!」「ナマステ、我が同胞!」と迎えられ、サンダル一つでテリーの街を彷徨い歩くこの姿、日本人だと誰が知る。



### [India today]

- ・P.M.2.5がものすごい、中国なんて比では無い、その3倍はあります。3日間、車は規制、工事は中止、子供は休み、大人は仕事・・・。
- ・通勤時今日は車の進みが悪い、原因なんと牛のカッブルのお散歩。インドでも「触らぬ神に祟りなし」。(ヒンドゥー教、聖なる牛)
- ・電力事情が厳しいためか、交通信号があま

- タージ・マハルの壯麗な姿
- タージ・マハルはものすごいインパクト。
- 昨日朝、地下鉄駅前の道路を自転車の列に
- 汗 汗 汗 身体中から噴きあがる。
- ホテルのバイキング、どの鍋開けてもカレーの匂い。Is this all the same one? No! No! No! 「味カレー」「マトンカレー」「ジタブルカレー」「トマトカレー」
- ホテルのバイキング、どの鍋開けてもカレーの匂い。Is this all the same one? No! No! No! 「味カレー」「マトンカレー」「ジタブルカレー」「トマトカレー」
- タージ・マハルはものすごいインパクト。
- 壮大で、真白に美しい、細工が緻密で素晴らしい。



タージ・マハルの壯麗な姿



大理石の細工は実にお見事

らしい。事務所のスタッフはその子孫なんか、途端に彼らを見る目が変わる。

## 鹿角市にようこそ！

BN  
尾崎 剛史

なため会の皆さん、こんにちわ！私は、平成8年度卒の尾崎剛史と申します。平成27年の春まで、コーチを務めさせていただきました。平成26年に何とか司法試験に合格し、平成29年の1月から、秋田県鹿角市の法テラス鹿角法律事務所に弁護士として勤務しております。

さて、鹿角をじ存知のない方も多いかと思います。位置関係からいようと、秋田県の北東部に位置し、青森県や岩手県に接しています。旧国名は陸中で、もともとは南部藩の領地でした。市を南北に、JR花輪線と東北自動車道が通じており、車での移動は比較的便利です。青森県の弘前市や岩手県の盛岡市まで、車だと1時間そこそこで行けますが、県都秋田市へは、車でも鉄道でも、2時間半から3時間ほどかかります。

鹿角市は、花輪盆地にあり、冬は例年1mほどの積雪があります。冬の寒さは厳しく、氷点下15°Cくらいになります。秋田県内で最も寒い地域です。夏は短く、暑いのは7月、8月くらいです。

鹿角市に暮りしていく良いことはたくさん



八幡平の鏡沼で見られる通称「ドラゴンアイ」。5月下旬～6月上旬に現れる神秘的な光景で最近人気のスポットです。

あるのですが、何といつても、自然の豊かなところでしょう。少し足を延ばせば、多くの山に登ることができます。有名な山では、北は八甲田山、岩木山、西に行けば白神山地、南に行けば、八幡平、岩手山、秋田駒ヶ岳など、さまざまです。市を中心部から八幡平までは車で40分、秋田駒ヶ岳の登山口までは1時間程度で行けます。また、山に囲まれてい

るだけあって、鹿角市周辺には、無名ですが、魅力的な山もたくさんあります。

さらに、鹿角市は温泉も魅力的です。十和田湖のふもとの大湯温泉、南部の湯瀬温泉をはじめ、八幡平周辺には、後生掛温泉や志張温泉、鹿角市からは離れますが、仙北市の玉川温泉や乳頭温泉、岩手・八幡平市の藤七温泉など、多くの温泉場が存在します。ですので、是非、なため会の皆さんに、鹿角市までおいで頂けたらと思います。山を楽しみ、ふもとの温泉で宿泊すれば、楽しいひとときを過ごせること請け合いで。秋田は、食べ物もおいしく、きりたんぽ鍋や鹿角牛、八幡平ポークなど名物も沢山あります。東京からすると、新幹線と高速バスを使って、4時間くらいで鹿角市に着きます。思つたより東京から時間はかかりません。機会があれば、周辺の山企画をしたいと思いますので、是非ご参加ください。

鹿角勤務もあと2年の予定ですので、その間にできる限り多くの山に登つてみたいと思います。

## 獅子の会

BN  
683 横手 一男

昭和44年度ワンダーフォーゲル部を卒業した仲間たちです。還暦を迎えて毎年開催することにしました。第一回は2008年(平成20年)11月に日光湯元の休暇村に集まりま

した。参加者は11名で、相原兄、郡司嬢、鈴木正兄、鈴木義兄、堀井兄、西島兄、金原兄、森田兄、津布樂兄、吉田兄、横手の11名です。宴会場でそれぞれのスピーチが行われた。現況報告とこれから歩みを懇談しました。その中で、西島兄が青春時代の思い出話に花が咲き、リーダー養成Wの印象が持ち出され、大丈田代（クビレ田代）に行こうと提案された。

翌年、2009年10月に同期会が伊勢志摩の鳥羽で開催され、伊勢神宮参拝をし、神靈の霧岡気に浸る。11月に大丈田代（クビレ田代）に西島兄（町田市在住）鈴木義兄（いわき市在住）横手（東京在住）の3人が行くことになる。会津高原駅で集合して鈴木義兄の車で実川林道に向かう。矢櫃沢の南尾根から入る。藪をかき分けてやせ尾根に入りズタケの藪を漕いで田代近くの尾根を行く。猛烈なやぶである。残雪が藪をなぎ倒している場所もあった。大丈田代（クビレ田代）に残雪があつた。田代を横切りテントサイト地を決める。樹林帯で水場も近く絶好のサイト地である。すぐに、サイトワークする。焚火をして体を温める。紅蓮の炎を見ながら学生時代の話に会話が弾む。西島兄、鈴木義兄は昭和43年以来のクビレ田代である。横手は平成16年以来の訪れである。南会津の自然是昔の儘の姿で迎えてくれた。木々のささやき、沢すがすがしさ、湿原の青さである。辺りは次第に暗くなる。それでもなお焚火の暖かさを



クビレ田代にて（2010年）

味あう3人です。夜が更けてテントに入る。翌朝はゆっくり起きて朝食を摂る。田代を10時に出発して来たルートを下る。下りは読図をしながら歩く。無事に矢櫛沢橋に着き実川林道を下る。

2010年8月下旬、南会津檜枝岐から実川林道へ今回は森田兄が加わり、西島兄、鈴木義兄、横手の4人となる。コースは前回と同じで田代の手前は尾根ではなく実川の沢沿いを歩くこととした。獸道を辿り、沢を越して藪を漕いでクビレ田代に出た。沢の流れは

相変わらずすがすがしい。昨年の場所にテントを設営した。焚火をして体を温める。学生時代と違い、ゆつたりとサイトワークである。時の経つのが緩やかである。田代を10時に下る。来た道を戻る。11月は同期会が南伊豆の休暇村で8名が集う。下田周辺を散策して江戸時代の幕末の歴史に触れた。

2011年8月下旬に有志5名がクビレ田代に参加した。金原兄、森田兄、西島兄、鈴木義兄、横手である。5名はクビレ田代に泊して、そのあと同期会が那須の休暇村で9名が参加しました。翌日は那須岳の登山でしたが雨のために中止しました。

2012年8月下旬に同期会が手白沢温泉で行われました。8名が参加で奥鬼怒山荘を見学しました。南会津は西島兄、鈴木義兄、森田兄の3名で中山峠、沼の平へ行つた。

2013年7月下旬、南会津の計画は西島兄、鈴木義兄、横手の3人で天候の不良のためクビレ田代は中止し駒止温泉に行くことにしました。それから、会津地方を散策した。このあたりから体力の限界がはじめたようだ。8月下旬は同期会が宝川温泉で9名が参加しました。谷川岳天神平までロープウェイで行き、さらにリフトで天神峰に行く。空模様は曇りがちでした。

2014年11月に田貫湖の休暇村で8名が参加して行われた。2015年7月下旬、南会津に西島兄、鈴木義兄、横手の3人がクビレ田代を計画したが、体力の限界を感じ始め

て中止にすることにした。檜枝岐村の民宿に宿泊して帝釈山、田代山を登る。翌日は台倉高山へ登る。この山はリーダー養成Wで登つた山である。40数年経つので風景が様変わりしていた。見通しの良い湿原の周りが樹林帯となっていた。9月下旬に同期会が乗鞍の休暇村で行われ8名が参加した。上高地を散策して、翌日は乗鞍岳の畠平に行く。

2016年（平成28年）11月上旬館山の休暇村に8名が参加した。木村兄の案内で安房神社から野鳥の森を散策した。森田兄、横手は解散後鋸山に登る。展望が最高で東京湾を一望できました。

2017年10月下旬、近江八幡の休暇村に9名参加し、古希の催として江口先輩（昭和43年度卒）を招待しました。学生時代のよもやま話をいまだから話せることを聞きました。先輩は門司市に在住し悠久自適の生活をしています。

西島兄はスポーツ観戦とジム通いをしています。相原兄は地区のイベントや町会の手伝いをしています。佐藤兄は悠久自適です。金原兄も悠久自適で時に山に登ります。森田兄は山にかけています。堀井兄は今回、国宝の城めぐりです。鈴木義兄はいわきで福島の原発事故で問題があります。農業を営んでいます。吉田兄はゴルフ三昧です。横手はいまだに山にこだわっています。中学生の部活動で卓球を教えています。同期会は幹事を代えて運営しています。毎年開催が楽しみです。

## 2017年度 明治大学体育会ワンダーフォーゲル部 なため会 幹事会・忘年会

■日 時 2017年12月16日(土) 12時30分~14時30分 ■場 所 明治大学 岸本・宮城ホール

◆式次第

●幹事会

12:30 開会

- 一、幹事長挨拶
- 一、議事
- 第一号議案  
2017年度 組織変更（案）の通り承認
- 第二号議案  
2017年度 事業進捗報告の通り承認

一、閉会



●忘年会

12:40 開会

- 一、会長挨拶
- 一、乾杯
- 一、歓談
- 一、部歌齊唱
- 一、校歌齊唱
- 一、写真撮影

14:30 お開き



◆出席者：44名（会員36名、学生8名）

●会員：36名

181 新村 貞男	228 島林 順三	299 大内 善一	339 足立 康弘	351 渡邊 厚介	352 小川 吉次
451 山田 祥二	455 飯村 朋圓	489 野村 司	494 木島 敏夫	495 深田 裕弘	501 前田 芳弘
505 椎橋 稔	527 池田 陽一	532 鈴木 正彦	538 佐藤 寛	558 奥村 勇一	601 池上 勝彥
661 大賀 徹雄	663 吉沢 利男	683 横手 一男	705 杉山 裕	717 住田 孔一	751 諏訪本充弘
764 高橋 壽子	788 原田 博文	817 和賀井英雄	835 猪狩 稔	871 平田 正博	879 井上 稔也
897 山下 仁志	909 谷 浩明	1115 上原 誠	1196 中村 宏之	1226 杉山 文啓	2120 鈴木 元典

●学生：8名

主将 福澤 光浩	主務 奥山 昂	4年 藤井裕希恵	4年 吉田 理人	4年 大室 克磨	4年 平 将秀
4年 沼田 直也	4年 乗木 大朗				



## 2017年度(平成29年度) 明治大学体育会ワンダーフォーゲル部 なため会 組織

## 会員総会

## 幹事会

■顧問	田村 敏夫(800)	新田 功(1100)		
■部長	長峰 章(1000)			
■相談役	新村 貞男(181) 大内 善一(299) 内田 吉成(392)	小林 碧(197) 西村 幸一(313) 紀伊辰之助(423)	島林 順三(228) 足立 康弘(339) 天野 淳明(477)	篠崎 徳量(241) 吉田 修(345)

## 運営委員会

■役員	会長	鈴木 正彦(532)
	副会長	奥倉 勇一(558) 大賀 徹雄(661)
	幹事長	猪狩 稔(835)
	副幹事長	平田 正博(871)
	監事	池田 陽一(527) 橫尾 廣志(728)
	駿台体育会理事	諏訪本充弘(751) 和賀井英雄(817)
	参与	奥倉 勇一(558) 橫手 一男(683) 濱田 稔(795)
	監督	諏訪本充弘(751)
	コーチ	井上 堅一(1064) 杉山 文啓(1226) 浜口小百合(1274) 諏訪部貴亮(1282) 前川 晃慶(1296)
■部会	総務部	(部長) 小田野義之(775) (副) 原田 博文(788) (副) 平田 正博(871) 龍 君江(838) 日暮 浩美(915) 松井 法一(974)
	財務部	(部長) 柳川 俊泰(792) (副) 上原 誠(1115)
	広報推進部	(部長) 井上 稔也(879) (副) 住田 孔一(717) (副) 加藤 章一(845) 鈴木 康弘(487) 一色 雅男(570) 池上 勝彦(601) 石井 克太(614) 猪狩 稔(835) 日暮 浩美(915)
	企画振興部	(部長) 濱田 稔(795) (副) 丸山 貞二(859) 奥倉 勇一(558) 大賀 徹雄(661) 龍 君江(838) 平田 正博(871) 井上 堅一(1064)
	山小屋管理部	(部長) 杉山 裕(705) (副) 小田野義之(775) (副) 植木 進(846) 唐川 拓三(850) 山口 直樹(1017)
	事業運営部	(部長) 山下 仁志(897) (副) 安部 好洋(1006)
■運営委員	飯村 朋園(455) 龍 君江(838) 中村 央(1156)	前田 芳弘(501) 石井 克太(614) 野島 一雄(676) 遠山 高広(858) 日暮 浩美(915) 松井 法一(974) 中村 宏之(1196)

## 上記以外の幹事

## &lt;組織変更案 詳細&gt;

幹事会 提案期日	B N O	氏名	異動内容
2017年12月16日	700	坂本 清	顧問退任(平成29年6月16日 逝去)
//	566	松本 栄作	運営委員退任
//	594	秋元 道別	運営委員退任
//	956	池本 直人	運営委員退任
//	976	成田 幸治	運営委員退任
//	1086	大村 研	運営委員退任
//	1196	中村 宏之	運営委員選任

## 〔新執行部紹介〕



藤井 裕希恵  
会計、4班 SL、装備・広報チーフ  
商学部商学科  
出身地：大分県  
県立大分上野丘高校



奥山 鳴  
主務、装備・気象・手白係チーフ、2班 SL  
政治経済学部経済学科  
出身地：神奈川県  
明治大学付属中野高校



福澤 光浩  
主将、針生・送付係チーフ、3班 SL  
法学部法律学科  
出身地：神奈川県  
鎌倉学園高校



大室 克磨  
3班 PL、衛生係チーフ  
法学部法律学科  
出身地：東京都  
都立国立高校



守屋 雄貴  
2班 PL、装備・手白係チーフ  
政治経済学部地域行政学科  
出身地：埼玉県  
城北埼玉高校



吉田 理人  
1班 PL、衛生・気象・手白係チーフ  
理工学部物理学科  
出身地：神奈川県  
聖光学院高校



今井 幹登  
1班 SL、針生係チーフ  
理工学部機械情報工学科  
出身地：神奈川県  
県立小田原高校



沼田 直也  
5班 PL、衛生・編集係チーフ  
情報コミュニケーション学部情報コミュニケーション学科  
出身地：神奈川県  
県立生田高校



平 将秀  
4班 PL、装備・広報係チーフ  
文学部史学地理学科  
出身地：東京都  
都立神代高校



森山 澤鵬  
3班 SL、広報係チーフ  
政治経済学部経済学科  
出身地：大阪府  
上海市進才中学国際部



田中 雄大  
2班 SL、衛生係チーフ  
情報コミュニケーション学部情報コミュニケーション学科  
出身地：東京都  
都立三鷹高校



林 薫平  
1班 SL、トレ係チーフ  
商学部商学科  
出身地：埼玉県  
大宮開成高校



乗木 大朗  
5班 SL、衛生・通信係チーフ  
文学部文学科  
出身地：北海道  
道立北海道函館中部高校



武内 真  
5班 SL、気象係チーフ  
法学部法律学科  
出身地：神奈川県  
桐蔭学園高校



朝倉 慶  
4班 SL、編集係チーフ  
政治経済学部政治学科  
出身地：埼玉県  
県立熊谷高校

## 新主将挨拶

福澤 光浩

この度2018年度の主将を務めさせていただくことになりました。主将として部員たちをまとめ、より良いワンゲルの一年間を作り上げていく所存であります。

既にご存じの方もいらっしゃるでしょうが、昨年度の夏合宿において山行中に大きな事故が発生してしまいました。事故の内容としては急坂を登っている最中に、一年男子部員が掴んだところ木が折れそこから40mほど滑落したというものでした。幸い彼の命に別状は無く、現在は怪我も完治しております。しかし、死亡事故となつても何う不思議ではない事故が部内で起つてしまつたことは重大に受け止めなければいけません。今までワンゲルでは安全講習や気象講習など、安全を確保するための活動を行つていましたがそれでも不慮の事故は発生してしまつことがあるのだと痛感させられました。

さて、今年の執行部の方針は「部の一体化を目指す」、「安全対策の確立」、「目的の明確化」の三つとなっています。部としての活動方針を決め意識を統一しておくこと、先ほど述べたような事故をもう起こさない、起きてしまったとしても早急に適切な対処が行われるようにしておくこと、そのために普段どのようなトレーニングや指導を行うべきかを具体化することが大切であると我々執行部は考

えております。

私個人の印象としましては現在ワンゲルの部員はそういう目的のための活動に対しても意識が高い者が多いと見受けられるので、後輩たちには期待をしています。とはいっても人間での意識の差は目立つてしまつ部分もあるのでそういう差を埋めていくのが主将の腕の見せ所だと思っています。

最後に私事ではございますが10月28日にOBの前田様が経営されている西丹沢のキャンプ場にて行われた、なため会ワンデリングのBBQのお手伝いをさせていただきました。

非常に設備の良いキャンプ場で素晴らしい大



先輩達の素晴らしいお話を拝聴させていただき、とても素晴らしい経験が出来たと思っています。（…これだけヨイショすれば大丈夫かな?）

冗談はさておき、諏訪本監督や井上コーチと同世代の先輩方から昔のワンゲルの姿を聞くことができ、改めてワンゲルの歴史の長さを感じ自分もその歴史を紡ぐ一人なのだと実感いたしました。一年間よろしくお願ひいたします。

### 平成30年度現役指導スタッフ紹介

● 部長：長峰 章  
● 監督：諏訪本充弘

● コーチ：井上 堅一 (274106475)

● 杉山 文啓 (2741226)

● 浜口小百合 (2821226)

● 諏訪部貴亮 (2821226)

前川 晃慶 (2961274)

### 年間行事予定

	平成29年	平成30年
7月	初夏W	10月
8月	正部員養成W	ワーク合宿(済)
9月	夏合宿(地域未定)	11月 秋合宿(済)
		2月 スキー合宿
		3月 春合宿
		4月 新人歓迎W
		5月 新人養成W

## 現役部員数

準OB	16名	(男13名 女3名)
4年	15名	(男14名 女1名)
3年	14名	(男13名 女1名)
2年	13名	(男10名 女3名)
合計	58名	

## 平成29年度卒業生歓送会のお知らせ

日時：平成30年3月11日（土）12：30～15：00

受付開始：12：00  
会場：岸本・宮城ホール（明治大学フローティングタワー2階）  
会費：6,000円

## ○小屋を利用したる方へ

左記の現役小屋係まで連絡願ふ所。

○奥鬼怒山荘（手白小屋）

吉田 理人 070-16901-6756

奥山 鮎 090-21601-6730

○針生山荘（針生小屋）  
福澤 光和 080-80083-0010

## ■主務連絡先

奥山 鮎

090-21601-6730  
Mwv2015natame@gmail.com

## ■投稿募集の件

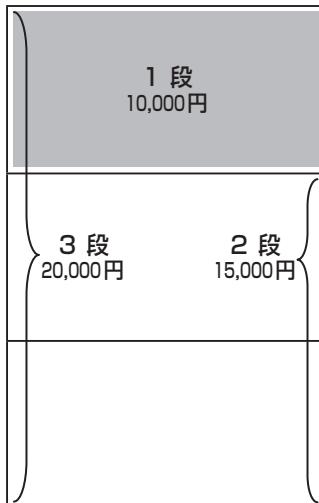
田頃じ愛読いただき、誠にありがとうございます。薰風では幅広い世代の皆様からの投稿を募集しております。

### 【トーマは聞こません】

「やつ」の「トルネグ」にまつわるお詫びに囚われず、皆様の身近な話題や趣味のお詫び、野球、ラグビー、駅伝といったスポーツなどへの思い入れなど、何でも構いませんので、どうぞお書きください。

### 【応募先について】

次回（第57回）掲載分  
締切：6月30日（土）  
送付先：巻末に記載の名編集委員または左記担当者  
BN 879 井上穂也



【投稿のスタイルも問いません】  
紙面の都合がありまして、文章であれば原稿用紙3枚程度にまとめていただけると助かります。また、前号では初めて一部をカラー化し、「ワンダラーのフォト日記」と題したスナップ形式のページを設けました。お写真に簡単なコメントを付けてご投稿いただければ大歓迎ですで、よろしくお願いします。

### 【広報を募集しているお知らせ】

例えれば地方在住で観光業に携わっている方や、通信販売で商品を販売されている方からの広報なども掲載させていただきたいと存じます。  
掲載スペースは1段、2段、3段（全段）の3種類で、お値段は1段：1万円、2段：1.5万円、3段：2万円です。  
きちんととした原稿でなくとも結構ですので、お気軽にご相談ください。

■会員情報の連絡先の件

住所変更や慶弔事など、なため余々員の動静について、下記の総務部宛にメールまたはファックスで送信していただか、あるいは直接担当者までご連絡願います。

総務部アドレス：soumu@natamekai.org  
ファックス：03-3600-4846  
郵便番号：107-0047 所沢市花園町一丁目四〇一  
電話番号：070-1690-1101  
メール：maromaro.maronoB@gmail.com  
※FAXの送信が困難な場合はメールにてお報じたださ。ショームメールでも可です。

## トト報

BN 526 文村宣司 OBが平成29年3月27日に逝去されました。

BN 668 牛田英夫 OBが平成29年10月26日に逝去されました。

BN 767 小林栄一 OBが平成29年5月26日に逝去されました。

BN 707 森 誠仁 OBが平成29年の1月10日に逝去されました。

BN 548 守重芳樹 OBが平成29年12月31日に逝去されました。

トトに謹んでお悔やみ申上げます。

明治の校歌の成り立ちを語ることは、やはり早稲田の存在を無視することができない。今では学校に校歌があるのは当たり前のように思えるが、明治の校歌が作られた大正9年（1920年）頃は、校歌は必ずしも全ての学校にあるものではなかった。現に東京帝大にはなかつたし、当時の明治大学のトップである木下友三郎学長が東京帝大出身だったこともあり、校歌がないのが自然であるという空気が蔓延していた。

しかし学生は不満であった。ライバルの早稲田大学には「都の西北」という立派な校歌があり、ボートや野球などで対戦する際に必ずと言っていいほど肩を組んで校歌を歌いだすのを見て悔しく思つた明治の学生は次第に増えていつた。そうした中から校歌を作ろうと立ち上がつた3人の学生（武田孟、牛尾哲造、越智七五三）が現れた。彼らは大学に掛け合い、学生の手で校歌を作つて良いという承認を得た。

校歌誕生の秘話



く武田らと交流などあるはずもなかつた花外は、彼らの生い立ちや人間性に魅力を感じ、快く引き受けてくれた。数日後に花外が完成させた詞は次のようなものであつた（1番のみ）。

たのだらひ。  
耕作の作った歌詞は次の通りである（一番のみ）。

## 文明の潮開拓の維新維業の栄えになつ

明治 明治 明治

明治の名文 我等の讀り

そして耕作は、(一)の詞を完成させた後ついで二つ持つ。即ち(一)の「耕作」、(二)の「栽培」である。

は一人の詩人を紹介した西城八十である  
この八十も文学史に名を遺す偉大な詩人であ

るが、耕作の紹介もあつて交渉は上手く進ん

白靈なびく饅頭當 露秀でたる若人が

撞くや時代の暁の鐘

文化の潮流きて とけし絶新の栄光になふ  
明治 Nの名がつれうが母校

明治

明治 その名をわが母校

あれこれ現在の核歌ですね。作曲がちつとも耕作が下りて。今は

この校歌のメロディーは本来ベルギーで開催

された才で、ハッカは出場する選手を激励するため、こ作つれたものを、井戸が耕作を説得

して校歌にしてもうらつたのだとこう。

このよいは明治の校歌とは、たまたまの一学生に過ぎない男達の「学生の心を一つにする校

歌を作りたい」という熱い思いから生まれた

※本文は2001年度明治大学付属明治高等学校  
中学校生徒会誌「過程」50号より引用しました。



# 寒中お見舞い申し上げます

## 昭和39年度卒業 山久会

「編集後記」

BN  
717 住田 孔一

師走に忙しく年も押し迫り、世の中の北・北と騒々しさに對峙して白い山茶花が何事もないかの如く、しかもいつもより大き目の花を着けて咲きほぼれて居ます。なため会の皆様のこの年はどのような年でしたでしょうか。

薰風五六号は同期会を特集いたしました。日頃なため会行事に参加されないOB・OGも多数出席されて盛況なので、四代合同同期会や五三会の報告と愛媛県・瀬戸内・生名島のミカン農家・津国次正氏の寄稿を掲載いたしました。津国氏は農学部卒・昭和四十四年度入部、事情があつて三年時に途中退部されました。が、津国氏にもMWVの伝統に触れた体験と以後四十六年の人生がありました。

発行日	平成三十年一月
編集者	鈴木康弘
発行者	石井克太
印刷所	加藤章一
明治大学体育会	井上稔也
ワンドーフォーゲル部なため会	日暮浩美